

# 兼 得

VOL.02

R18

BEAR HAND



「やはりこの小娘が王を語るにはちよいと器がな…」

「ちよいとどころではない」

「傍ら痛しというものだ！  
ふははははっ」

「ぐぬぬ…」

「はははは…」

「別の私が以前世話になったようだな……どうした？何故黙る」

「この赫々たる姿に恐れをなしたのか？」

「人違い？詭弁だな」

「貴様らの霊基は確かに根底が同じものだろう」

「この人絶対何か勘違いしているよ……」

「このお姉さんなんか怖い……」



「ぐちゅ…ちゅぷ…」

「ずいぶん慎ましいモノを  
ぶら下げているな…所詮は子供か♥」

「あっ…ううう…」

「この程度の器で臆面もなく  
他人を貶せたものだ…ずるるっ」

「ちよっ」

「ちよっと待って…  
あれは☆5の方じゃ…」

「口を閉じろ！覚えの悪い孺子に  
躑をするのは王の責務である♥」



「…このような純朴な子らが  
どう足を踏み外せばあの  
無礼な者達になるのだ」

「きつと母の愛情が  
足りなかったのだな…♥」

「あっ…うう…身体が…  
おかしくなっちゃう…」

「何か出そう…」

「貴様らの母親のかわりに躡けてやろうっ♥」

「腰…うごかさないで…」

「ぐうっ！」

「はあっ…おちんちん…熱いよ…」

「溶けちゃう…っ」



「どうだ！征服王よ♥」

「自分の肛門<sup>アナナル</sup>を他人に征服された感想は♥」

「ふん…語らずとも良い」

「いやだ…わあっ!」

「あっ…はあ…ぐうううっ!!」

「この精液<sup>しよんたい</sup>はっ♥」

「貴様の前立腺<sup>せんげん</sup>が私の舌に完全敗北した証拠だっ♥」

「ごめなさい…!」

「お姉さん…ごめなさい…」

「成長したボクがきつと何か悪いことをしたんでしょう…ボクが代わりに謝りますから」

「いまさら上辺だけの謝罪に  
なんの価値も見いだせぬ♥」

「受けた屈辱は貴様らの  
身体に刻み込んでやろう」

「この乳王<sup>きしおう</sup>たる私の威光<sup>ていこう</sup>を  
貴様らの目に焼き付けるっ♥」



「ふんっ…青二才が…」

「はむっ…ずるう…」

「生意気に…舌で責め  
立ててくるなど…っ♡」

「ずるるる…」

「んっ…♡」

「じゅる」

「この舌技…っ♡…はあっ♡」

「貴様らっ…どこで  
覚えたのだ…っ♡♡」

「くっ…子供ちんぽが  
腔内で…♡どんどん  
太くなって…♡」

「認めざるおえない…っ♡  
こいつらのちんぽはっ♡  
王の器だっ♡♡♡」



「小僧っ…♡  
人の胸をっ♡勝手に  
吸うのではないっ♡♡」

「母乳がっ♡勝手にっ♡」

「くっ…♡<sup>まんこ</sup>膣内に射精すなっ♡♡  
王の身体をっ♡まるで便器みたいになっ♡♡」

「おっ♡♡やめろっ…♡」

「きっ…貴様らあ…♡ガキのっ  
くせになっ♡生意気だあっ♡」

「この…っ♡<sup>きしおう</sup>乳王がっ…♡♡  
しつけてやるから…っ♡♡」

「私の身体で…っ♡一からっ…♡  
王にたいするっ♡♡れいぎをっ  
おしえてやりゆうっ♡♡♡」





「うん…」

「ね…ギルくん…  
今のうちに逃げよう…」

「ぐうっ…♥♥  
王同士の対決…っ♥  
「二人相手は…っ♥  
さすがにっ…♥♥  
無理か…っ♥♥♥」



**Bear Hand**  
ireading62.blogspot.tw

著 者 俺正讀 & 魚生  
サークル 熊掌社  
翻 訳 水野 様  
翻訳監修 ねこてゐ 様  
発行日 2019/08 (C96)  
印刷所 株式会社 栄光  
連絡先 ireading62@gmail.com

**18歳未満の閲覧購入禁止、無断転載禁止**